闘え！大商大 大商大スポーツ DAISHODAI SPORTS FREE

全日本3位

男子M級 川村

不撓不屈

ボクシング部

アマチュアボクシングの国内最高峰の全日本選手権が聖地・墨田区で行われた。男子は、全国9ブロックの代表と日連推薦選手ら11階級107名がエントリー。大商大からは4階級で4拳士がリングに上がった。

連日、熱戦を繰り広げ、川村陸が堂々3位。残りの3選手も8位入賞を果たした。今大会で3年連続の表彰台入りとなった大商大ボクシング部。不撓不屈の精神は、脈々と受け継がれている。

男子M級	赤コーナー	勝敗区分			青コーナー
準決勝	（大商大・北海道）川村　陸	×	WP 1-4	○	木場 海星（法政大・東海）
1回戦	（明治大・北信越）藤山 成悟	×	WP 0-5	○	川村　陸（大商大・北海道）

※RSC-I（Referee Stop Contest - Injury）
アマチュアボクシングの試合において、選手が反則でない打撃で負傷したためにレフェリーが試合を中断し、相手選手を勝利と競技判決。

全日本ボクシング選手権大会
11月26日～12月1日　ひがしんアリーナ（墨田区総合体育館）

リベンジ

けがが原因で成績不振が続いていた男子ミドル級・川村陸（公共2・札幌工業）が、大会直前に調子を取り戻し、万全の状態で試合に挑んだ。

川村の初戦は2年前のインターハイで敗れた明治大・藤山選手と対決となった。川村は序盤から猛攻を仕掛け、相手を圧倒。強烈な右ストレートと左フックのコンビネーションがさえ、勢いそのままに5－0の判定勝ちで、2年越しのリベンジを果たした。

続く準決勝、初戦の勢いを生かしたかったが、序盤は法政大・木場選手の独特な距離感に戸惑い、思うように攻撃が当たらないもどかしい試合展開に。中盤以降、徐々に自身のペースを取り戻し、川村らしい勇猛果敢な前へと進むファイトスタイルで反撃に出るも間に合わず。惜しくも1－4の判定負けとなった。

3位で全日本ボクシング選手権大会初めての台乗りとなった川村は「1回戦は楽しんで戦えた。準決勝は相手のリーチに苦戦し、中に入り込めなかった。実際に対戦してみないと分からないことも多かったので、次戦にこの経験を生かしたい。次こそは金メダルを取る」と気持ちを切り替えた。来年の活躍にも期待ができそうだ。

復帰戦

昨年の同大会にけがで出場できなかった男子バンタム級・浅井陸（公共3・堺工科）が「今年こそは日本一」と意気込んでリングに上った。

1回戦、うまく距離を取ろうとする相手をじわじわと追い詰めながら強打で攻め、5－0とフルマークでの判定勝ちを収め、安定の強さを見せた。続く準々決勝、どちらに軍配が上がってもおかしくない壮絶な打ち合いを両者繰り広げた。採点ではジャッジ全員が1点差をつける接戦だったが、0－5の判定負け。接戦を制せずベスト8に終わった。

浅井は「攻撃後のディフェンスが課題。これを次の試合までに改善し、パンチを受けずに自分のパンチを当てる理想のボクシングをしたい。この負けで自分はもっと強くなれる」と前を向いた。

惜しい

学生最後の集大成の大会となった男子ライト級・柴田錬（商4・岡山商科大学付属）は、シード権を獲得し、試合を優位に進められる位置につけた。

迎えた準々決勝、相手とうまく組み合えない場面が多く見られ、2ラウンドで反則により2点減点を取られてしまう。間髪入れずに挽回し、相手からダウンを奪う気迫も見せたが減点が響いて、0－5の判定負けを喫した。2年前の同大会で3位入賞した柴田だったが、その記録を超えられずベスト8。「最後に結果が出なくて、悔いが少し残っている」（柴田）と本音を口にした。

今後もボクシング競技を続行する柴田は「ルールをしっかり把握し、フィジカルをもっと鍛えていかないとダメだった。しっかり修正したい」と語り、大学ボクシングを締めくくった。

大学ラスト

昨年の同大会で3位入賞し、優勝を強く意識していた男子ライトウエルター級・丸元大五郎（公共4・興國）。1回戦は、昨年の国体で苦汁を飲まされた（株）旅行綜研西日本の興座選手と拳を交えた。昨年よりも成長を感じさせた丸元は、2ラウンド1分4秒のRSC勝ち。

続く準々決勝、常に前へと踏み出す真っ向勝負のファイトスタイルで攻める丸元と、巧みに守りと攻めを使い分ける相手との白熱した試合に会場が沸いた。しかし、0－5で判定負けし、ベスト8となった。

丸元は「相手がとてもうまかった」と丸元を破って勝ち進み、優勝した対戦相手の自衛隊体育学校・北本選手を称えるも唇をかんだ。

卒業後はプロへ転向する丸元は「B級プロテストに合格したので、これからはプロの世界でもアマチュアの経験を生かして頑張りたい」と抱負を語った。

文／松﨑弘起（経済1・九州学院）
文／小柳治輝（経営3・神戸野田）

男子L級 柴田

男子LW級 丸元

男子B級 浅井

ベスト8

第32号
1面　ボクシング部
2面　硬式野球部　日本拳法部　ウエイトリフティング部　卓球部
3面　体育会本部NEWS他
4・5・6面　リーグ戦・入替戦　プレーバック

「第78回全日本ボクシング大学王座決定戦」
準優勝
敢闘賞　丸元 大五郎（公共4・興國）

「全日本ボクシング選手権大会」

男子バンタム級	ベスト8	浅井 陸（公共3・堺工科）
男子ライト級	ベスト8	柴田 錬（商4・岡山商科大学附属）
男子ライトウエルター級	ベスト8	丸元 大五郎（公共4・興國）
男子ミドル級	3位	川村 陸（公共2・札幌工業）

途中入部もOK「クラブ・サークル勧誘」実施

日時／2025年4月8日（火）～11日（金）・14日（月）
10:30～15:30※雨天中止、予備日15日（火）・16日（水）
場所／4号館前、谷岡記念館横、メインストリート
（GATEWAY（図書館）下に「勧誘相談所」を設置）

新入生歓迎！！「第27回いぶき祭」開催

日時／2025年4月7日（月）10:30～17:00
場所／ファミリーマート前ステージ他　※雨天決行
特設ステージで先輩たちがクラブを熱く紹介します。他にも無料の軽食配付や、ビンゴ大会などのお楽しみ企画も行います！

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

体育会系クラブに聞いた 教えて!! 4つの質問

体育会系24クラブそれぞれの様子をみなさんに知ってもらえるように、各クラブの主将または主務に厳選した4つの質問に答えてもらいました！
取材／西川裕貴（経営1・近畿情報）

①クラブの雰囲気
②楽しいと感じた瞬間
③動物に例えると
④ユニフォームの色

ウエイトリフティング部

①一人一人が一生懸命
②みんなで全力で応援して新記録が出た時
③ゴリラ？
④黒

カヌー部

①静か
②タイムが縮んだ時
③魚
④黒

空手道部

①明るく、元気
②みんなで盛り上がって取り組む時
③オオカミ
④赤

剣道部

①和気あいあい
②稽古をしている時
③犬
④紺

硬式庭球部

①活気の溢れるクラブ
②試合で相手に勝った瞬間
③狼
④白黒

硬式野球部

①常に緊迫感がある
②リーグ戦に勝利した時
③寅
④アイボリー

ゴルフ部

①明るい楽しい
②ボールの当たりが良かった時
③ライオン
④指定なし

サッカー部

①明るい
②試合に勝った時
③ライオン
④白黒

自動車部

①仲が良い
②年下の部員とのコミュニケーション
③馬
④黒

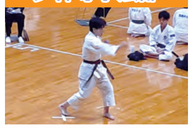
柔道部

①和気あいあい
②実力が上の選手に勝てた時
③ねこ
④白と青

準硬式野球部

①学年関係なく仲が良い
②普段の練習の成果が試合で発揮された時
③虎
④アイボリー

少林寺拳法部



①良い
②練習終わり
③ぞうさん
④白

水上競技部

①和気あいあい
②水泳距離を更新できた時
③小魚
④指定なし

ソフトテニス部

①にぎやか
②リーグ戦で1部に上がった時
③鳥
④黒

卓球部

①活気のある楽しい雰囲気
②団体戦で勝った時
③猿
④紺、青

日本拳法部

①みんな仲良くて明るい！
②みんなが活躍してる姿を目の前で応援できている時！
③リスかカンガルー　④白

バスケットボール部

①上下関係のない
②競った試合で最後にしっかり勝ち切れた時
③ハイエナ
④水色

バレーボール部

①明るい
②競った試合に粘り勝ちした時
③ライオン
④緑と白

フィールドホッケー部

①練習・試合を楽しむ
②得点を取った時や相手のシュートをセーブした時
③ラクダ
④緑

ボウリング部

①真剣
②いいスコアが出た時、試合に勝った時
③試合は猿声を出すため猿
④黒と赤

ボクシング部

①メリハリがあるクラブ
②対面でマススパーをしている時
③虎
④オレンジ

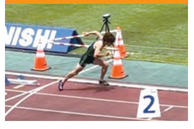
ライフル射撃部

①静か
②満射した時
③いのしし
④赤色

ラグビー部

①初心者歓迎
②トライした時
③サイ
④青

陸上競技部



①和気あいあいとしている
②自分の自己ベストを更新した時
③個人競技なので狼で!
④緑

第75代 新3役紹介

①好きなスポーツ　②行きたい場所　③一言

副委員長
竹之内 咲愛（商1・吹田）
①バスケ
②沖縄
③全力で元気に頑張ります！

委員長
陶山 侑奈（経営2・松江商業）
①卓球&野球
②ヨーロッパ
③1年間みんなで協力して頑張ります！

副委員長
髙岡 陸（経済2・和歌山北）
①野球
②ペネチア
③できないことも協力してやり切ります！

体育会本部 NEWS

新委員長メッセージ

12月12日に行われた体育会総会で第75代体育会本部の新役員が決定しました。新3役を筆頭に体育会本部は、体育会系クラブの活動を全力でサポートします。
取材／野津碧（経営2・隠岐）

第75代体育会本部委員長の陶山侑奈です。体育会本部の仲間とも、体育会系クラブ生との間でも、架け橋となることができるよう、たくさんコミュニケーションをとって全力でサポート、応援をさせていただきたいと思います。
不安なことも多々ありますが、体育会本部全体で体育会系クラブを支えていきたいと思いますので、これから1年間よろしくお願いいたします！

フォロー・チャンネル登録求ム！

大阪商業大学 課外活動 @oucsportscenter
大商大スポーツ @shodaisportscenter
大阪商業大学 体育会本部 @taiikukaihonbu

休部中！部員急募！！

合気道部
創部：平成12年
・初心者大歓迎
・選手男女問わず歓迎

アメリカンフットボール部
創部：昭和48年
・初心者大歓迎
・マネージャー男女問わず歓迎

少しでも興味のある方は、
総合体育館2階 学生支援課 体育館事務室まで。
TEL:06-6785-6129（平日・土曜 9:00～17:00）

学生記者 大募集中

スポーツ観戦が好きなあなた、
一緒にクラブ生の応援に行きませんか？
大学で何かに挑戦したいあなた、
一緒に「大商大スポーツ」を作りませんか？
お問い合わせ先：体育会本部 TEL:06-6788-7052
部室：総合体育館（北側）1階

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

全日本学生 男子団体 4位

硬式野球部

12月入団会見に臨み、プロ野球選手としての第一歩を踏み出した3人のルーキーたち。阪神タイガース1位のOB・伊原陵人投手（NTT西日本・智辯学園）、埼玉西武ライオンズ2位の渡部聖弥外野手（商4・広陵）、福岡ソフトバンクホークス育成9位の岡田皓一朗投手（公共4・智辯学園）だ。
背番号は伊原18、渡部8、岡田140に決定。満面の笑みで抱負を語ってくれた。プロ野球でも気迫あふれるプレーを披露してほしい！
文／谷川あゆな（経営2・伊賀白鳳）

「張り切りすぎてけがをしないように気をつけながら開幕スタメンを狙いたい。球団に期待されて1桁の背番号をもらったので、その期待に応えたい」（渡部）

「素晴らしい順位でプロへ行けることができ、富山監督に恩返しができた。まずは阪神を代表する投手になり、その先は日本代表を目指していきたい」（伊原）

「1日でも早く支配下に登録されて1軍で投げたい。将来は同じパ・リーグに行く渡部と戦いたい。最終的には最終回を任される投手になりたい」（岡田）

日本拳法部

12月に大阪で行われた全日本学生拳法選手権大会。まさかの1回戦敗退から1年。シードから外れた大商大は、1回戦からの登場となった。1・2回戦を7勝0敗と圧勝すると、3回戦も危なげなく勝ち上がった。
そして、準々決勝では第3シードの中央大と対峙した。優勝候補相手に一時は2勝3敗と追い込まれるも、副将が勝利して3勝3敗。最後は大将・浦窪大吾朗（公共4・関西福祉科学大学）が試合を決める一勝を挙げ、準決勝へと駒を進めた。
続く準決勝の相手は宿敵・関西大。乗りに乗る大商大が先鋒から3連勝し、あと1勝で決勝進出というところで、関西大の底力を見せつけられる。中堅から4連敗を喫し、無念の逆転負けとなった。悔やんでいる間もなくいまま迎えた3位決定戦。関西学院大を相手に先鋒が勝利するも、勢いが衰えてしまった大商大はその後、連続での勝利を挙げられず、惜しくも3勝4敗で敗れ、表彰台に一歩届かなかった。
これが学生最後の大会となった主将の浦窪は「絶対に勝つという気持ちを一人一人が持って戦えたと思う。自分自身は、後輩たちに勇気を与えるようなプレーを見せることができ悔いはない」と清々しく語った。また、課題を、勝利への執念とし、練習から勝つ意識を持って取り組む後輩の姿に期待を寄せ、応援していきたいとチームのこれからに思いをはせた。
文／西川裕貴（経営1・近畿情報）

奮闘及ばず

第69回全日本学生拳法選手権大会
12月1日 エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育会館）

「日本拳法総合選手権大会〈第64回全日本拳法個人選手権大会〉」
成年男子　1回戦敗退　石倉 優斗（経済2・大阪）
1回戦敗退　寄川 龍人（公共1・大商大堺）

「第39回全日本学生拳法個人選手権大会」
男子の部　4回戦敗退　山口 和真（経済3・大商大堺）
4回戦敗退　小浜 守大（経済2・関西福祉科学大学）

「第69回全日本学生拳法選手権大会」
男子団体　4位

ウエイトリフティング部

11月に行われた全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（2部）で無念の男子団体3位になり、1部昇格を逃した大商大。気持ちを切り替えて12月の関西学生ウエイトリフティング選手権大会に挑んだ。
団体戦は、個人戦出場選手の中から団体戦メンバーを選び、その選手のスナッチとクリーン&ジャークのベスト記録、そのトータル記録、それぞれの順位を得点化し、団体戦の順位を決める。
大商大は67㌔級・佐藤颯紀（経営2・仙台大学附属明成）と89㌔級・杉谷優太（公共3・星槎国際）が個人戦優勝を果たし、残りのメンバーも健闘を見せ、得点を積み上げていく。さらに109㌔級・岩谷梅輝（公共4・若狭東）が一時大会新記録で準優勝と猛追するも、わずか1点差の男子団体3位に終わった。
主将の岩谷は「緊張感もあったが楽しもうという気持ちがいつも以上に強かった。リラックスして試合に臨めたので、今の自分の力を出し切れたと自信を持って答えた。また、4年生引退後の大商大ウエイトリフティング部について「人数が減って団体で戦うことが大変になる。残された時間で後輩たちに教えられることを教えたい」（岩谷）と語った。大商大の名門復活をこの目で見届けたい。
文／青江紗花（経営2・岡崎商業）

関西学生 男子団体 3位

第71回関西学生ウエイトリフティング選手権大会（男子）
12月14日・15日　羽曳野市立総合スポーツセンターはびきのコロセアム

「第78回国民スポーツ大会（SAGA2024）正式競技　ウエイトリフティング競技」
成年男子89kg級　6位　杉谷 優太（公共3・星槎国際・福井県代表）

「第70回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（Ⅱ部）」

団体	3位	
67kg級	優勝	佐藤 颯紀（経営2・仙台大学附属明成）
89kg級	優勝	杉谷 優太（公共3・星槎国際）
109kg級	優勝	岩谷 梅輝（公共4・若狭東）

「レディースカップ第16回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会」

一般の部団体	32位	
一般49kg級	8位	山口 桃花（公共3・舞子）
一般71kg級	12位	糟谷 かんな（公共1・柴田）

「第71回関西学生ウエイトリフティング選手権大会（男子）」

団体	3位	
67kg級	優勝	佐藤 颯紀（経営2・仙台大学附属明成）
81kg級	準優勝	河原 圭汰（公共3・若狭東）
89kg級	優勝	杉谷 優太（公共3・星槎国際）
109kg級	準優勝	岩谷 梅輝（公共4・若狭東）
+109kg級	準優勝	大内 皓太（公共3・柴田）

猛追届かず

卓球部

会長杯争奪卓球大会において、大商大卓球部史上初となる男子の部で団体、ダブルス、シングルスの三冠達成だ。
男子ダブルスでは住友祐介（経済3・城南）・曽我拓海（公共3・松山商業）ペアが見事優勝。この2人が頂点を争った男子シングルスでは住友が優勝、曽我が準優勝を果たした。関西2部以下の規模の大会ではあるが、団体28校、ダブルス165ペア、シングルス356名の頂点に立つのは容易ではない。
今大会の優勝全てに絡む活躍を見せた住友は「この成果はとてもうれしく誇りに思う。三冠を達成できたのはチーム全体の支えがあったからこそだと感じる」と振り返った。そして「もっと上のレベルの相手に勝つためには、日々練習の質を上げ、個人、チームともにレベルアップが必要。次の試合に向けて気を引き締めていきたい」（住友）と今後を見据え、闘志を燃やした。
文／野津碧（経営2・隠岐）

©関西学生卓球連盟

会長杯 男子3冠

シングルス　ダブルス　団体

「第53回後藤杯卓球選手権大会（名古屋オープン）」

男子ダブルス	1回戦敗退	小椋 浩明（公共4・倉吉北）他
男子シングルス	2回戦敗退	本田 仁志（経済4・太子）

「第57回会長杯争奪卓球大会」

男子団体	優勝	
男子ダブルス	優勝	住友 祐介（経済3・城南）・曽我 拓海（公共3・松山商業）
男子シングルス	優勝	住友 祐介（経済3・城南）
	準優勝	曽我 拓海（公共3・松山商業）

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校

リーグ戦・入替戦 PLAY BACK 2024 通年・秋

入替戦勝利 男子1部残留 こらえた！

RIGAVIL CUP関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦・入替戦
9月7日～10月20日・27日 大商大総合体育館アリーナ他

バレーボール部

春季リーグ戦で2部優勝を果たした大商大は、関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦では強豪ひしめく男子1部での戦いに挑んだ。2季ぶりとなる1部に、主将の横瀬優月（経営4・高川学園）は「我々はチャレンジャーなので失うものはない。ただやるしかない」と気持ちを奮い立たせた。

しかし、予想していた通り1部の壁は高く、1次リーグAブロックでの試合は連日黒星がつづき、苦戦を強いられた。前半戦ラストとなる関西学院大との試合は、フルセットまでもつれ込む接戦となったが勝利をものにすることができず、1次リーグは0勝5敗に沈んだ。

続く2次下位リーグでも後半戦の初戦を落とし、第7戦のびわこ成蹊スポーツ大に3―2で試合は連日黒星が続き、流れに乗ることができず、1勝4敗で終えた。最終順位は1部11位となった。大商大は昨秋同様、入替戦に回ることになった。

後のない大商大は翌週に行われた入替戦で2部2位の大阪国際大と対決。2部で惜しくも優勝を逃した勢いに乗る相手だったが、ここは大商大の底力を見せつけ3―0でストレート勝ちし、無事1部残留となった。

2部降格を免れた大商大だったが、今後の抱負として、横瀬は「1部残留」という目標はかなり低い。本来なら日本一を目指すクラブでなければならない。来季は"残留"を目標にするのではなく、"残留が当たり前"となるようなワンランク上の目標を立てたい。みんなでその目標に向かって突っ走ってほしいと後輩に思いを託した。

文／清水瑠（商2・大手前丸亀）

男子2部5位 悔いの残る…

関西学生卓球秋季リーグ戦
8月26日～9月6日 ベイコム総合体育館（尼崎市記念公園総合体育館）他

卓球部

8月から9月にかけて関西学生卓球秋季リーグ戦が行われ、大商大は1勝4敗で男子2部5位に留まった。

大商大は開幕戦、佛教大にストレート負けを喫し、ようやく4戦目で天理大から初白星を挙げた。しかし、流れを変えられず、最終戦の甲南大にも敗れ閉幕した。天理大戦の白星で3部との入替戦を回避できたが、悔いの残る結果となった。

新主将の石橋悠（商3・和歌山商業）は応援はチーム全体でまとまっていたし、ベンチワークもさえたが、練習通りのプレーができなかった。次のリーグ戦までに練習中でも試合のような緊張感を持ち、今以上にベンチワークに磨きを掛けたい」と語った。

来春は1部昇格争いに絡むレベルアップした姿を見せてほしい。

文／野津碧（経営2・隠岐）

崖っぷちで粘り 2部10位 通年

第102回関西学生サッカーリーグ
前期 4月7日～7月21日・後期 9月8日～11月16日 大商大人工芝グラウンド他

サッカー部

関西学生サッカーリーグ。大商大は前期を2勝5敗4分の10位で折り返し、巻き返しを誓うも後期は3勝5敗3分の10位で、通年10位という結果に終わった。

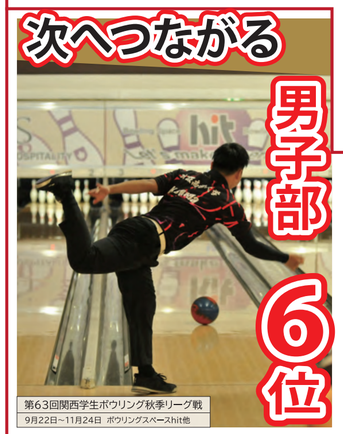
12チーム中下位2チームが降格となる2部リーグで、大商大は崖っぷちの2部残留を決めたものの「苦い結果に顔をしかめた。

前期はチームの調子があまり上がらず苦戦を強いられ、ゴールが決まらないという課題が見えた。後期は前期終了後の夏から集中的に取り組んだ戦術の一つである、全員で前線からのハードワークによる守備によってチーム一丸となり、復調の兆しを見せた。が、上昇気流に乗せることはできなかった。

今シーズン一番の活躍を見せた主将の春木郁哉（公共4・徳島商業）は「後期終盤ではチームの踏ん張りが見られて良かった」と話し、来シーズンについては「シーズン前に立てたリーグ優勝という目標とは程遠い結果になり悔しい。次こそ1部昇格を実現してほしい」と夢を託した。4年生の想いを引き継ぎ、これからも不撓不屈の精神で日々精進してほしい。

文／石田真大（経営1・河南）

次へつながる 男子部6位



第63回関西学生ボウリング秋季リーグ戦
9月22日～11月24日 ボウリングスペースhit他

ボウリング部

関西学生ボウリング秋季リーグ戦、大商大は10週にわたる長い戦いの末、11勝19敗で男子部6位で幕を閉じた。

秋季リーグ戦では、「各々がチームのために自己ベストを更新しようという意気込みを持ち、全力を尽くした。5週目の近畿大、6週目の摂南大との対戦では、奮闘するも、まだ経験の浅い部員も多くスペアミスが目立ち、厳しい戦いになった。しかし、主務の岡田侃士（経営2・奈良情報商業）は「こんなときこそチーム一丸となって応援し、選手同士で支え合っていい雰囲気を作ることを意識していた」という。

その結果、試合を通してチームの課題を見つけられ、次へとつながる勝負ができた。春より順位も2つ上がった。また、今秋から復活した新人リーグ戦にも出場し、経験を積んだ。

練習でも、各々が課題を改善するためにできることを実践している。岡田は来季に向けて、「スコアが悪くても落ち込まず、雰囲気を良くしたい。ミスも全員が『良い経験』と捉えて実力と自信につなげられるような強気な試合をしたい」と語った。

次への一歩を踏み出した大商大ボウリング部。今後の活躍に期待が膨む。

文／知念春那（経済3・賀島）

無念の予選敗退 男子5部 Dブロック 3位

関西大学対抗テニスリーグ戦予選
9月5日～12日 大商大多目的屋内競技場他

硬式庭球部

今秋行われた関西大学対抗テニスリーグ戦で、大商大は男子5部予選リーグDブロック2勝2敗の3位となり、決勝トーナメント進出を逃した。

初戦、佛教大にダブルスは2―1で勝ったものの、シングルスは2―4で巻き返され、惜しくも敗れた大商大、続く2戦目の滋賀県立大には接戦を繰り広げた末、ダブルス1勝の差をつけ勝ちり切った。しかし、最終戦、大阪経済大にはダブルス1―2、シングルス3―3であと一歩及ばず敗れ、悔しさの残るリーグ戦となった。

主将の松岡恭平（公共3・太成学院）は「4年生が引退してしまうので、次は自分たちがチームを引っ張るという自覚を持ち、来年は悔いのない結果を出せるよう練習に励みたい」と来季の抱負を語った。次こそは予選リーグ突破に期待したい。

文／浜田里桜（経営2・新居浜商業）

捲土重来期す 5季ぶり 70回目V達成

阪神六大学準硬式野球秋季リーグ戦
9月4日～10月19日 大阪公立大学杉本キャンパスグラウンド他

最優秀選手
首位打者
打点王
本塁打王
ベストナイン（外野手）
藤原漱祐（公共3・開星）

最多勝利投手
山本 陽翔（経済3・小松商業）

盗塁王
坂本 初寧（経済3・大商学園）

盗塁王
岸野 桂大（経営3・鳥取城北）

ベストナイン（遊撃手）
小森 絃貴（公共2・近江兄弟社）

ベストナイン（外野手）
河本 直也（経済3・守山北）

準硬式野球部

春季リーグ戦4位と振るわなかった大商大は、9月に開幕した阪神六大学準硬式野球秋季リーグ戦に捲土重来の思いで挑んだ。

1巡目総当たり戦を4勝1敗で1位となり大健闘し、文句なしで3巡目決勝リーグ進出を決めた。そして、決勝リーグでも3戦全勝と躍動し、70回目となるリーグ優勝を飾った。

大阪公立大との決勝リーグ初戦で大商大は、4回裏に2点を先制するも、8回表に追いつかれイーブンにしかし、後を継いだ山本陽翔（経済3・小松商業）がしっかりと後続を抑えた。その裏、大商大は1点を追加するも、またも9回表の攻撃で追いつかれるシーソーゲームとなった。

3―3の同点で迎えた最終回。大商大は2四球と内野ゴロで2死2・3塁の一打逆転の絶好のチャンスが巡ってきた。ここで主将の兼村颯太（経済3・小松谷）がサヨナラ本塁打を放ち、6―3で勝利した。

勢いづいた大商大は、決勝リーグ2戦目に関西大と接戦を繰り広げ8―7で逆転勝ち、3戦目の阪南大には7―3で勝利し、5季ぶりの優勝を果たした。

主務の森遼馬（経済3・いなべ総合学園）は「優勝という形を残せたことがすごくうれしい。歴代の先輩方が積み重ねてきた優勝回数に自分たちも貢献できたことは、大変光栄なこと。支えてくれた多くの人に感謝したい」と誇らしげに語った。

来春はこの優勝の経験を生かした選手たちのさらなる躍動から目が離せなくなるに違いない。再び、大商大の名を全国に轟かせてほしい。

文／木村龍馬（公共1・鹿島学園）

もどかしい2部9位

関西学生バスケットボールリーグ戦
9月7日～11月3日 大商大総合体育館アリーナ他

2部 得点王
2部 フリースロー王
桑田 琉羽（公共4・如水館）

バスケットボール部

2季ぶりの1部昇格を目指し、関西学生バスケットボールリーグ戦に臨んだ大商大だったが、昨年同様2部9位と伸び悩んだ。

大商大は初戦から6連敗に陥り、序盤は調子が上がらず。ようやく7戦目の阪南大との対戦で、第1Qから徐々に点差を広げ、97―70でついにリーグ初勝利を挙げた。が、その後も白星とは黒星を繰り返し、1次リーグは3勝8敗となり、2次リーグでは下位ブロック争いを演じた。

2次リーグでは1次リーグの雪辱を果たすべく、攻めの姿勢を見せ3連勝でリーグ戦を締めくくり、最終6勝8敗の9位で2部残留を決めた。

試合後、エースで主将の桑田琉羽（公共4・如水館）は「なかなか勝利を積み上げられず苦しい試合が続いた」と肩を落としたが、「リーグ戦終盤になるにつれて、徐々に自分たちのすぐに切り替えて攻めるポジティブなプレーを表現でき、勝利につなげられた」と手応えも語った。

また、4年生引退後の新チームに向け、「2年前に降格してから今では2部下位というもどかしい状況。リーグ戦は序盤でどれだけいいスタートを切れるかが鍵になってくると思う。来シーズンに向けしっかり準備をして1部昇格してほしい」（桑田）と力強く語った。

文／岡村和樹（経営2・大阪）

Cリーグ8位 上出来

関西大学ラグビーリーグ
9月15日～12月1日 大阪経済法科大学花岡キャンパス人工芝グラウンド他

ラグビー部

関西大学ラグビーリーグの再編成によりDリーグとCリーグが統合された今シーズン。昨シーズンDリーグを合同チームで4戦全勝の1位だった大商大は、今シーズンは流通科学大、大阪経済法科大びわこ成蹊スポーツ大との4校による合同Bチームを組んで、Cリーグからスタートを切った。

1次リーグでは8校による6―1リーグを戦い、4勝2敗1分で3位と好位置につけた大商大。続く2次トーナメントでは、けが人の影響もあって勝ち上がれず、最終順位は16チーム中8位となった。

主将の古川竜暉（経営4・大阪）は「数少ない合同練習の中で、チーム全員が一致団結した。試合を重ねるごとにサインプレーの質が高まり、チームの総合力も増していった。その結果、8位を取れて良かった」と語った。

また、今後のチーム編成について、「来シーズンは大商大単独でのリーグ出場を果たしてほしい」（古川）と次世代への期待を込めた。

文／岡村和樹（経営2・大阪）

男子3部5位 伸びしろ

関西学生ホッケー秋季リーグ
10月6日～12月8日 グリーンランドみずほ人工芝ホッケー場他

フィールドホッケー部

大商大は、関西学生ホッケー秋季リーグに他大学の選手を登録できる制度を使って、神戸大との合同チームで出場を果たした。チーム名は大商大として登録され、休部明け初の「大商大」の名を背負っての参戦となった。

好戦績を残すべく「一生懸命にプレーしたが春季リーグで一緒に戦った近畿大やその他の3部校の壁は厚く、0勝4敗0分の男子3部5位で幕を閉じた。

主将の本下惠一郎（商2・賀島）は「白星を挙げられなかったのが正直悔しい。でも、大商大のユニホームを着てリーグ戦に出られてうれしかった」とコメントした。

来季の大商大フィールドホッケー部の伸びしろに期待したい。

文／石田優音（経営3・向陽台）

その他の主な大会結果（2024年7月22日～12月15日）

▸全ての試合結果は、大阪商業大学課外活動WEBページの「News&Topics」をチェック！

◆空手道部
「第65回全関西大学空手道選手権大会」
男子団体組手1部競技　ベスト8
女子団体組手競技　敗者復活戦勝利
「第78回国民スポーツ大会（SAGA2024）正式競技　空手道競技」
組手団体　3回戦敗退　鹿児島県　岩崎 翔（公共3・鹿児島県代表）他
成年男子組手個人中量級　3回戦敗退　岩崎 翔（公共3・鹿児島県代表）
「第68回全日本大学空手道選手権大会」
男子団体組手　3回戦敗退
女子団体組手　2回戦敗退

◆硬式庭球部
「関西学生チャレンジテニストーナメント」
男子シングルス　1回戦敗退　尾崎 諄輔（経済4）
男子ダブルス　2回戦敗退　山崎 智也（経営2）・山本 晋士（経営1）
「関西学生地域テニストーナメント」
男子ダブルス　3回戦敗退　山崎 智也（経営2）他
2回戦敗退　松岡 恭平（公共3）・大東 莉功（経済2）
女子ダブルス　1回戦敗退　宮崎 珠希（公共1）・原田 瑚子（公共1）
男子シングルス　2回戦敗退　山崎 智也（経営2）

◆硬式野球部
「第22回大阪市長杯争奪関西地区大学野球選手権大会
兼第55回明治神宮野球大会関西地区第1・2代表決定戦」
3位（第1代表決定戦敗退・第2代表決定戦敗退）
敗闘賞　鈴木 豪太（公共3）

◆サッカー部
「関西学生サッカーリーグ（Independence League）（通年）」
Division,1-Aブロック　9位（4勝14敗0分）

◆カヌー部
「第61回関西カヌースプリント選手権大会
兼第79回国民スポーツ大会カヌースプリントリハーサル大会」
一般男子カヤックシングル（500m）　予選3組8位　高橋 響（経済1）

◆柔道部
「第43回関西学生柔道体重別選手権大会」
男子66kg級　2回戦敗退　翁長 大（公共4）
男子73kg級　2回戦敗退　柳澤 達紀（公共2）
男子81kg級　2回戦敗退　雑賀 瑠星（経営2）
男子90kg級　2回戦敗退　内海 瑛人（公共1）
「第26回全日本大学生柔道体重別団体優勝大会」
男子　1回戦敗退　関西学連選抜チーム
内海 瑛人（公共1）・朝田 雄太（経営2）他

◆少林寺拳法部
「少林寺拳法関西男子生新人大会」
自由単独演武段外の部　予選敗退　森本 英次（経済2）
予選敗退　松本 大輝（経済1）

◆準硬式野球部
「秋季関西地区大学準硬式野球選手権大会」
ベスト4
「第33回関西地区大学六リーグ対抗準硬式野球大会」
優勝（4勝1敗0分）　阪神六大学選抜チーム
コーチ　青木 大貴（経営4）
投手　杉政 快成（公共3）
主将・内野手　兼村 颯太（経済3）
内野手　岸野 桂大（経営3）
内野手　小森 絃貴（公共2）
外野手　坂本 初寧（経済3）
副務　津田 早紀子（公共3）
副務　梶岡 羽笑（経営2）
「第42回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会」
準優勝　全関西選抜チーム
外野手　藤原 漱祐（公共3）

◆ソフトテニス部
「第79回三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会」
男子の部　3回戦敗退　小林 歩輝（公共3）・手塚 涼太郎（経営3）
3回戦敗退　松山 勇人（公共3）・宮田 和磨（経営3）
3回戦敗退　小笠原 健斗（経営1）・金谷 梨輝（公共2）
3回戦敗退　丸田 涼介（経営1）・兄玉 嶺（経済1）
2回戦敗退　田中 伶（経営2）・神谷 駿介（公共2）
2回戦敗退　堀谷 優友（公共2）・富永 健真（公共2）
「第66回全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会」
男子の部　2回戦敗退　西川 陽都（経済1）
「第78回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会」
男子の部　2回戦敗退

◆バスケットボール部
「関西学生バスケットボール秋季トーナメント」
2回戦敗退

◆バレーボール部
「第78回国民スポーツ大会（SAGA2024）正式競技　バレーボール競技」
成年男子　3位　京都府　梶田 勘太郎（公共1・京都府代表）他
4位　佐賀県　渡瀬 晴輝（公共1・佐賀県代表）他
「PhitenCUP関西バレーボール大学男女選手権大会」
男子トーナメント　2回戦敗退
「第77回秋父宮賜杯全日本バレーボール大学男子選手権大会
ミキプルーンスーパーカレッジバレー」
トーナメント戦　1回戦敗退

◆ボウリング部
「第63回関西ボウリング選手権大会」
男子シングルス戦　41位　松盛 翔（経営3）
男子2人チーム戦　8位　関西学生Bチーム　松盛 翔（経営3）他
男子4人チーム戦　準優勝　関西学生Aチーム　松盛 翔（経営3）他
「文部科学大臣杯第62回全日本大学ボウリング選手権大会」
男子の部5人チーム戦　27位（予選敗退）
松盛 翔（経営3）・岡田 侃士（経営2）・堀上 和馬（経営1）・土橋 遼（経済2）・島田 海龍（公共1）・保田 祐輔（経済1）

◆陸上競技部
「第1回学連競技会」
男子100m　タイムレース総合結果136位　石田 侑輝（経営3）
男子200m　タイムレース総合結果111位　大山 翔樹（公共4）
男子400m　タイムレース総合結果86位　石田 侑輝（経営3）
男子800m　タイムレース総合結果74位　保田 吉輝（経済3）
男子1500m　タイムレース総合結果66位　松田 煌汰（経済2）
「関西学生陸上競技種目別選手権大会
兼第46回関西学生混成選手権大会」
男子4×400m　予選敗退（予選5組7位）
石田 侑輝（経営3）・政禁 佑輔（商1）・保田 吉輝（経済3）・水井 康輝（経営2）

大商大スポーツ応援Days
体育会系クラブの試合をオリジナル応援グッズで一緒に応援しませんか？ 開催が決まり次第、学生支援課 体育館事務室よりS-Navi!でお知らせします！
大商大生・教職員の方へ

※文中人名後の（ ）内は、所属学科学年・出身高校

※文中人名後の（ ）内は、所属学科学年・出身高校

リーグ戦・入替戦プレーバック

2024　通年・秋

4面
準硬式野球部
バスケットボール部
ラグビー部
フィールドホッケー部
5面
バレーボール部
卓球部
サッカー部
ボウリング部
硬式庭球部
6面
硬式野球部
ソフトテニス部

リーグ史上最長 6季連続V

最優秀選手賞
担当記者クラブ賞
首位打者賞
ベストナイン（三塁手）
特別賞（通算100安打以上打者）
渡部 聖弥（商4・広陵）

担当記者クラブ賞
ベストナイン（外野手）
平古場賞（野手部門）
特別賞（一試合最多塁打数）
特別賞（一試合最多本塁打数）
春山 陽登（公共2・敦賀気比）

最優秀防御率賞
星野 世那（公共2・近江）

関西六大学野球秋季リーグ戦
9月2日～10月16日　マイネットスタジアム皇子山他

硬式野球部

関西六大学の絶対王者として、6季連続リーグ優勝と3年連続の関西地区大学野球選手権大会出場をかけて関西六大学野球秋季リーグ戦に挑んだ大商大。

初戦の第1節、神戸学院大との対戦では、まず初回に渡部聖弥（商4・広陵）の力強い左中間の2ラン本塁打で2点先制すると、その後も得点を重ね、6―0で勝利した。翌々日の第1節第2戦でも初回に春山陽登（公共2・敦賀気比）の力強い右越えの3ラン本塁打を含む4点で先制したのを皮切りに、2回と7回にも春山が本塁打を放ち、9―2で圧勝した。この日、春山はリーグ史上最多となる1試合本塁打記録3本を達成、かつ1試合最多塁打12塁打の記録を更新した。

第6節第2戦で京都産業大に完封負けを喫し苦しむも、ピンチに強い大商大は第3戦でしっかり勝ち切り、勝ち点を4に伸ばした。

チーム	順位	大商大	大阪経済大	龍谷大	京都産業大	神戸学院大	大阪学院大	試合数	勝	敗	勝点	勝率
大商大	1	☆	●○○	○○	○●○	○○	○○	12	10	2	5	0.833
大阪経済大	2	○●●	☆	○○	○○	○●○	●○○	13	9	4	4	0.692
龍谷大	3	●●	●●	☆	○○	●○○	○●○	12	6	6	3	0.500
京都産業大	4	●○●	●●	●●	☆	○○	○○	11	5	6	2	0.455
神戸学院大	5	●●	●○●	○●●	●●	☆	○○	12	4	8	1	0.333
大阪学院大	6	●●	○●●	●○●	●●	●●	☆	12	2	10	0	0.167

そして、最終節の大阪経済大との優勝争い。1勝1敗で迎えた天王山は、見事な投手戦で8回まで両校譲らず。試合が動いたのは9回、大阪経済大に1点先制され、大商大は大ピンチに追い込まれた。しかしその裏、4番渡部が打てば通算120安打となる最多安打記録更新のかかった打席で初球犠打を選択し、1死2・3塁とチャンスを広げると、続く春山の遊ゴロが失策を誘い同点に追いついた。その後、2死1・3塁で代打の蜷川大（商3・広陵）が三遊間を破る適時打で、逆転のサヨナラ勝ち。

10勝2敗の勝ち点5とした大商大は、最多連続優勝記録を伸ばし6季連続27回目のリーグ優勝を飾った。

秋季リーグ戦で最優秀選手賞に選ばれた渡部は「リーグ最多安打記録は、全く気にしていなかった。それよりもチームが勝つことだけを考えた結果、送りバントになった」ときっぱり。渡部の人柄と仲間を思う気持ちは、感動の涙を誘った。

文／谷川あゆな（経営2・伊賀白鳳）

男子1部昇格

ソフトテニス部

関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦において、男子1部昇格を掲げて挑み、ついに念願がかなった大商大。

第1対戦では大阪成蹊大に3―2で白星発進すると、第2対戦でも桃山学院大に3―2で勝利し勢いに乗った。第3対戦では大阪教育大に4―1で危なげなく勝利し、初日は全勝と上り調子で翌日を迎えることになった。

第4対戦は近畿大を相手に3―2の接戦を制し、優勝への足掛かりとした。いい雰囲気で迎えた最終戦は春季リーグ戦で敗れた大阪体育大との対戦。善戦するも2―3で惜敗し、リベンジの機会を逃した。

4勝1敗で並んだ大商大と近畿大だったが、得失点ゲーム差で大商大が混戦を抜け出し、男子2部優勝を勝ち取った。そして、1週間後に行われた1部昇格がかかった2季ぶりとなる入替戦では、関西大に白熱の5番勝負を繰り広げた。

1番手ペアが粘り勝ちで何とか勝利するも、2番手ペア、シングルスの3番手が敗れる展開に。しかし、4番手に登場した松山勇人（公共3・市川）・宮田和磨（経営3・神戸星城）ペアが、1・2ゲームを連取。しかし、3・4ゲームを献上というシーソーゲームに。その後、昇格への執念を見せつけ、5・6ゲームを取り返しつないだ。

5番手は、竹内晴紀（経営2・明徳義塾）・西村梓苑（公共2・綾羽）ペア。会場の応援も後押しとなり、大商大の勢いは最高潮に。相手に反撃する間も許さず、4ゲーム奪取のストレート勝ちで3―2とし、昇格を決めた。

新主将の松山は「12年ぶりの1部昇格だったので、素直にうれしい。来季以降、1部で優勝争いができるよう日々頑張りたい」と意気込んだ。

着実にレベルアップしている大商大ソフトテニス部の1部での飛躍に期待したい。

文／岡本楓（商1・倉吉西）

入替戦勝利

大商大	③-2	関西大
○小笠原・金谷	④-3(⑦-5)	内藤・是常
●堀谷・北川	3-④(3-⑦)	飯田・中垣
●西川	1-④	北澤
○松山・宮田	④-2	石原・池田
○竹内・西村	④-0	植松・木下

関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦・入替戦
10月5日・6日・13日　同志社大学京田辺キャンパステニスコート他

我楽多

▼今年度も全国大会出場、1部リーグ昇格、ドラフト指名など、体育会系クラブ生が輝いた1年でした。今後も素晴らしい成績を残していただけるよう体育会本部一同、全力で応援・サポートします。（第75代体育会本部広報部長・搆口）

▼広報部に入って初めての仕事がドラフトの取材だった。選手たちへのインタビューはとても緊張したが、いい経験になった。これからも大学野球の楽しさを、大商大スポーツ新聞を通して伝えていきたい。（谷川）

▼初めての撮影、取材、原稿作成だったので、先輩に一から教わりながら取り組みました。サッカー部の今季に対しての思い、来季への意気込みがうまく文字に起こせなかったように感じました。語彙を増やし、読者により分かりやすく伝わる記事を書くことを心掛けていきたいです。（石田真）

▼今回初めて撮影から記事作成までを行った。広報部として撮影に行くことで普段とは違う友人たちを見ることができ、多くのスポーツに触れる経験ができた。これからもたくさんのことを経験して頑張っていきたいと思う。（木村）

▼ソフトテニス部の記事を担当しました。撮影では選手とボールを写真に収めることや、記事では適切な言葉遣いを意識して書きました。難しくて大変でしたが、とてもやりがいを感じました。ソフトテニス部の活躍をたくさんの人に読んでいただけるとうれしいです。（岡本）

関え！大商大　大商大スポーツ　DAISHODAI SPORTS
発行編集　大阪商業大学　学生支援課　体育館事務室
印刷　共同精版印刷株式会社

※文中人名後の（　）内は、所属学科学年・出身高校